

高専生と目指せロボコン!

● 周南^{徳山} ●

徳山小5年生がロボットづくり

周南市の徳山小(海老原春夫校長)で八、九両日、徳山高専生のサポート授業「リモコンロボットを作ろう」が開かれ、

五年生九十二人が熱心に製作した。児童に科学やものづくりに関心を持ってもらうと昨年からお

り、十一月一日に同高専で開かれる周南ロボコン2008用の缶釣りロボットを作るもの。昨年の大会には同校から二十六



高専生の指導でハンダづけする児童

チームが参加した。ロボットはアームの上げ下げや磁石つきの糸を垂らして「釣り堀ゾーン」から空き缶を釣り上げ、自陣の「ストックゾーン」に持ち帰るもの。八日は高専生九人の指導で二組の三十二人が本休組み立てとハンダづけをした。ほとんどの児童が初めてだったが、高倉恭介君は一熱くて難しいけど集中してやりました」と話していた。

同校は十月に校内でブレ大会を開いてロボットの動きを調整してロボコンに臨む予定で、同高専の桜本逸男教授は夢中になって作る児童たちを見て「適性があってもきっかけが大事。こういう体験は早いほどいい」と目を細めていた。

チームが参加した。ロボットはアームの上げ下げや磁石つきの糸を垂らして「釣り堀ゾーン」から空き缶を釣り上げ、自陣の「ストックゾーン」に持ち帰るもの。八日は高専生九人の指導で二組の三十二人が本休組み立てとハンダづけをした。ほとんどの児童が初めてだったが、高倉恭介君は一熱くて難しいけど集中してやりました」と話していた。